

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

### 2 オルレアンにある日本現代アート（2020年10月16日）

パリから南へ電車で1時間で行けるオルレアンで、日本人アーティストの作品を見ることができます。

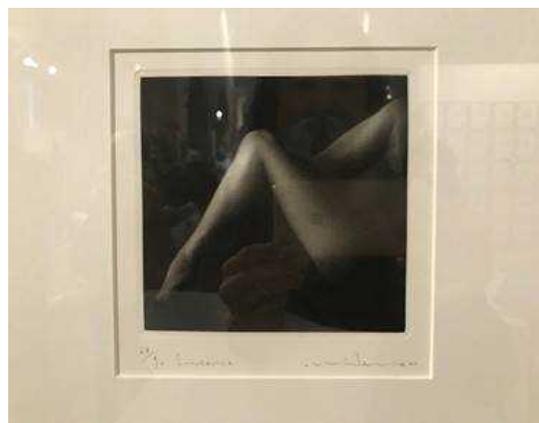
現在、オルレアン芸術家サロン（Salon des Artistes Orléanais）という公募展が、オルレアンにある Le Collégiale Saint-Pierre le Puellier で開催されています（10月25日まで）。地元の現代アーティストの中から選ばれた作品を展示するサロンで、113回目を数える今回は、フランス在住の二人の日本人アーティストが招待されています。

お一方は、彫刻家の原田哲男さんです。大理石、御影石、ステンレスなど様々な素材を使って、自然からインスピレーションを得た作品を制作されています。原田さんに勧められて白い大理石の作品に触れると、滑らかな手触りで、ひんやりするのに温かみを感じました。原田さんが作られた Le Tricot de la Terre（地球の編み物）と名付けられた作品は、オルレアン市内にあるグロロ館（Hôtel Grosloot）の庭にありますので、サロンが終わった後もオルレアンで原田さんの作品を見ることができます。



(Le Tricot de la Terre)

もうお一方は、銅版画家の渡辺幹夫さんです。メゾチント（マニエール・ノワール）と呼ばれる技法を使った作品を制作されています。櫛のようなギザギザしたもので銅板を傷つけて黒く色付けした後、印刷したときに灰色や白く写したい部分を必要な分だけ削っていきます。削りすぎたらやり直しがきかない一発勝負です。女性の足は、写真のように見えませ



## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

んか？メゾチントは、写真が発明される前に使われていた技法で、写真の発明とともに一度は廃れましたが、後に復活しました。渡辺さんによると、画廊の方が写真と間違えたこともあるそうです。印刷するために使うプレス機は、何と1トン以上もの重さがあるそうです！

同じくオルレアンでは、Le FRAC Centre-Val de la Loire では、「形が語るとしたら」(Quand la Forme Parle) 展が開催されています(2021年3月7日まで)。現在の日本を代表する35の建築事務所が設計した64点の作品の模型や資料を展示して、日本の現代建築を包括的に紹介する展覧会です。取り上げられる作品の多くは2010年以降に発表された作品です。本来は本年春にパリで展覧会が開催される予定でしたが延期され、巡回展であるオルレアンでの展覧会が先行して開催されることになりました。パリでの展覧会は、2021年4月からパリ日本文化会館で開催される予定です。

オルレアン市は、宇都宮市と姉妹都市提携をしており、30年以上の交流の歴史があります。オルレアン市役所を訪問した際には、Salle Utsunomiya(会議室「宇都宮」)で面会しました。市役所の会議室の名前に使うほど日本の姉妹都市を大切にしてくださる方がいるオルレアンで、日本に対する関心が高まることは嬉しいことです。